

令和 7 (2025) 年度県立高等学校入学者選抜の結果について

令和 7 (2025) 年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が 2 月 6 日 (木) 及び同月 7 日 (金)、一般選抜が 3 月 6 日 (木)、また、定時制課程のフレックス特別選抜が 3 月 6 日 (木)、一般選抜が 3 月 18 日 (火) に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

令和 7 (2025) 年 3 月の県内中学校卒業見込者数 16,825 人 (前年比 227 人減) を考慮し、全日制課程の定員を 10,795 人 (前年比 280 人減) とした。

2 令和 7 (2025) 年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校 58 校 112 系・科で実施された。選抜の方法として、全ての高校で面接を実施し、40 校 86 系・科では作文を、16 校 24 科では小論文を実施した。また、2 校 2 科で学校作成問題による学校独自検査を実施した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和 61 年度から一般選抜 (学力検査) の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は 3 校 3 科で国数英の 3 教科により実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を 1.5 倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜 (学力検査) 受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は 22 校 67 科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行う A 海外特別選抜で 13 名が合格した。

定時制課程においては、満 20 歳以上の志願者は、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、3 名が合格した。

以下、各教科の学力検査問題 (全日制) について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程入学者選抜における全受検者の結果を集計したものであり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	令和 7 (2025) 年度				令和 6 (2024) 年度				令和 5 (2023) 年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	10,795		560		11,075		560		11,475		560	
受検人員	4,501	8,287	176	227	4,706	8,454	178	234	4,828	8,657	173	226
受検倍率	1.68	1.11	1.76	0.50	1.74	1.10	1.78	0.52	1.74	1.08	1.73	0.50
合格人員	3,040	7,025	107	216	3,107	7,267	106	215	3,162	7,481	108	217
合格倍率	1.48	1.18	1.64	1.05	1.51	1.16	1.68	1.09	1.53	1.16	1.60	1.04

※ 受検倍率=受検人員÷定員, 合格倍率=受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、国語で正確に理解し、適切に表現する言語能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の学力の実態に応じ、言語についての知識とその理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や社会生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の考え方を捉え、あるいは作品の描写や登場人物の心情を読み取るなどして、その内容をまとめて表現する力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の作品を素材にして、我が国の言語文化に関する知識や作品の世界を広く理解する力を評価できるようにした。
- 5 作文は、自分の考えを条件に従って適切に書く力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、漢字の読み・書きに関する問題である。

1の漢字の読みの問題は平均正答率が86.3%、**2**の漢字の書きの問題は平均正答率が61.8%であった。漢字の読みは、全体としてよく読めていたが、(5)の「添削」の正答率が64.7%とやや低かった。漢字の書きは(2)「投球」が78.1%で最も正答率が高く、(4)の「街路」は49.3%と、最も低い正答率となった。日常生活で使用する語彙の定着を今後も期待したい。

2 は、今野真司「日本語と漢字」と加藤徹「漢文の素養」を素材として出題した。日本語の表記や意味の変化について論理的に説明している文章である。

自分の言葉で答えを記述する設問**3**の部分正答率を含む正答率は40.2%であった。記述問題においては、本文の語句を用いて論理的に説明する力を身に付けるとともに、書くことに対する前向きな姿勢が必要となる。

説明的な文章を読解する上では、筆者が本文全体を通して伝えようとしている内容を正確に読み取る力を養っていく必要がある。そのためには、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、論理の展開について考えたりする学習を取り入れることも効果的である。

3 は、君嶋彼方の「春のほとり」を素材として出題した。友人と漫画作りをしている中、1人で応募していた漫画が受賞した連絡を受けたことにより心が揺れ動く場面を取り上げた。

主人公の様子から心情を読み取る問題の正答率は部分正答を含めて**3**が76.6%、**4**が59.4%であ

った。多くの受検生が前向きに記述問題に取り組んだことがうかがえる。

文学的な文章では、各自の読みとった内容の意見交換を行うことに加えて、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動によって、確かな読みの育成につなげていきたい。

4 は、「耳袋」を素材として出題した。上京する主人から離れようとしなかった犬をめぐる、人々の反応について書かれた文章である。

1の歴史的仮名遣いは、正答率が93.1%とよく読めていた。また、**4**の(Ⅲ)は本文と生徒の会話を踏まえた設問であったが、正答率は75.7%という結果であった。

主語を補いながら読み進める古文の特徴を念頭に、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等の継続が重要である。また、言語文化を継承するという観点からも、古文特有の言葉に注目したり、話の面白さを味わったりするなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

5 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみる問題と作文となっている。**1**から**5**では、言語に関する単なる知識の確認にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立てることを意図して出題した。また、**6**の作文では芸術鑑賞をするとき、事前に作品について調べてから鑑賞する方法と、鑑賞してから詳しく調べる方法のどちらを選ぶかを条件に沿って内容を適切に書く能力を評価するものである。

テーマに対する適切な具体例、自分の考えと理由を関連づけて適切に表現することを求めている。普段の生活の中で、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、読み手の立場に立って自分の意見を表現する訓練をしていきたい。

問		題	正答率
1	1	(1)	99.4%
		(2)	99.5%
		(3)	99.5%
		(4)	68.6%
		(5)	64.7%
	2	(1)	63.1%
		(2)	78.1%
		(3)	69.1%
		(4)	49.3%
		(5)	49.5%
2	1		93.0%
	2		91.3%
	3		3.5% (40.2%)
	4	(I)	93.8%

問		題	正答率
2	4	(II)	58.7%
	5		74.5%
3	1		84.5%
	2		83.5%
	3		18.3% (76.6%)
	4		4.9% (59.4%)
	5		70.1%
4	1		93.1%
	2		5.6 (33.8)%
	3		66.9%
	4	(I)	19.3%
	4	(II)	69.5%
	4	(III)	75.7%

問		題	正答率
5	1	(1)	66.1%
		(2)	48.6%
		(3)	61.5%
		(4)	78.9%
	(5)	46.4%	
2		(94.7%)	

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 各分野において基礎的・基本的内容を出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 3 地図、図版、統計、略年表等から必要な情報を読み取り、適切に表現する力をみようとした。
- 4 各分野において論述問題を出題し、社会的事象等を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的 分 野	歴史的 分 野	公民的 分 野	合 計
選 択	9(18)	9(18)	8(16)	26(52)
記 述	4(8)	4(8)	4(8)	12(24)
論 述	2(8)	2(8)	2(8)	6(24)
合 計	15(34)	15(34)	14(32)	44(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

1 は、地理的分野において、身近な地域調査を素材として、地形図の読み取り、自然環境や産業と人々の生活の関わりや、地域の特色など地理的分野についての理解の程度をみる問題である。

5 は、小田原市の農業と6次産業化について、習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は22.2%であった。

2 は、地理的分野において、イギリスと世界各国とのつながり、東南アジア地域を素材として、自然環境や産業と人々の生活の関わりや、地域の特色や地域間の結びつきなど地理的分野についての理解の程度をみる問題である。

3(2) は、資源利用の持続可能性について、習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は33.0%であった。

地理的分野の学習において、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係などに着目し、資料を活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させていく

ことが必要である。

3 は、歴史的分野において、歴史上の人物を素材として、各時代の特色や政治の変遷など歴史的分野についての理解の程度をみる問題である。

4 は、御成敗式目の特徴と制定理由について、習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は2.1%であった。

4 は、歴史的分野において、日本と国際情勢に関する風刺画や地図などを素材として、各時代の特色や政治の変遷など歴史的分野についての理解の程度をみる問題である。

3 は、日本の独立回復と冷戦下の東アジア情勢について、習得した知識や複数の資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は10.6%であった。

歴史的分野では、各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する学習が重視されている。単元の最後に時代の特色を捉える学習活動の充実をお願いしたい。

5 は、公民的分野において、日本国憲法、選挙制度や裁判員裁判、日本国内経済の状況などを素材として、法、政治、経済に関する制度や概念など公民的分野についての理解の程度をみる問題である。

2(5) は、契約と消費者問題について、習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は25.4%であった。

6 は、公民的分野において、国際社会の協調に向けての取り組みなどを素材として、法、政治、経済に関する国際的な取り決めや概念など公民的分野についての理解の程度をみる問題である。

5 は、ODAと持続可能な社会づくりについて、習得した知識や資料から読み取ったことを基に考察し、適切に表現する力をみるもので、正答率は21.4%であった。

公民的分野では、法、政治、経済について、対立と合意、効率と公正などに着目し、社会的事象等について考えたことを説明したり、現代社会の諸課題の解決に向けて自分の考えをまとめて論述したり、議論などをおして考えを深めたりするなどの学習活動を充実させ、思考力等の育成を図ることが求められる。

今後も社会科の授業では、課題を追究する活動を充実させ、学んだ知識・技能を活用したり、社会的事象について多面的・多角的に考察したり、構想したりする力を育成することが求められる。

問		題	正答率
1	1		87.2%
	2	(1)	80.8%
		(2)	70.5%
		(3)	47.2%
	3	(1)	69.5%
		(2)	61.1%
	4		70.3%
	5		22.2% (86.6%)
2	1	(1)	67.4%
		(2)	81.3%
		(3)	37.0%
	2	(1)	43.8%
		(2)	66.1%
	3	(1)	91.2%
		(2)	33.0% (71.8%)

問		題	正答率
3	1		67.2%
	2		43.3%
	3	I	25.7%
		II	46.4%
	4		2.1% (30.0%)
	5		85.5%
	6		52.8%
7		60.3%	
4	1	(1)	84.9%
		(2)	36.8%
		(3)	67.9%
	2	(1)	58.5%
		(2)	69.7%
	3		10.6% (54.9%)
	4		29.2%

問		題	正答率
5	1	(1)	39.9%
		(2)	92.3%
		(3)	74.7%
		(4)	67.6%
	2	(1)	85.0%
		(2)	56.9%
		(3)	58.0%
		(4)	39.5%
		(5)	25.4% (76.0%)
	6	1	
2		65.0%	
3		77.0%	
4		63.3%	
5		21.4% (66.6%)	

※ () 内は部分正答も含めた割合

数 学

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即して、数学の基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力・判断力・表現力等を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、データの活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、基礎的な概念や性質に気づいたり、筋道を立てて説明し表現する能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を通して、知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 5 データの活用の領域では、データの分布、場合の数・確率に関する基礎的・基本的な問題を通して、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 6 日常生活や社会の事象の中に潜む関連や法則を数理的に考察し、数学的な思考力、判断力、表現力等を用いて、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な知識及び技能の習得をみる問題であり、平均正答率 68.3%であった(昨年度は 67.0%)。データの四分位範囲、内角の和や回転体の体積を求める図形の問題、一次関数の文字への理解に課題がみられた。今後も基礎・基本の定着を図ってほしい。

2 は、数と式の領域における基礎的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。**1** は根号について正しく理解できているかを問う問題であり、**2** はノートと鉛筆のセット販売についてノートと鉛筆の数を正しく捉え立式し、連立方程式を解く問題であり、**3** は整数の性質の証明に関する問題である。正答率は**1** が 62.6%、**2** が 52.0(63.2)%、**3** が 41.2(57.1)% (() 内は部分正答も含めた割合) であった。一つ一つの内容はいずれも基本的な内容である。与えられた条件を正しく理解し、表現・処理する力の定着が望まれる。

3 は、図形の領域における知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。**1** は、点をもう1点を中心に90度回転させた点ということから、点を通る垂線を用いることを理解し、それを論理的に作図する力を問う問題である。正答率は 48.9%であった。**2** の(1)は、正四角錐の相似を理解し、体積比を求める問題。(2)は、三平方の定理を用いて高さを求める問題である。正答率は、(1)が 27.5%、(2)が 17.6%であった。**3** は、正三角形とその辺上に頂点をもつ正三角形から、三角形の外角や三角形の内角の和の性質を用いて、三角形の相似を証明する問題である。正答率は 12.7(61.6)% であった。図形における点、線分、角の位置関係を正しく捉え、問題を解決したり、統合的・発展的に考察したりする学習活動の充実が望まれる。

4 は、データの活用の領域における基礎的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。**1** は、度数分布表から累積度数を求める問題と標本調査の問題、度数分布表の見方を表から読み取れることで説明する問題であり、正答率は(1)が 60.1%、(2)が 70.8%、(3)が 53.0% であった。**2** は、2個のさいころを投げて出目の数の和だけ正方形の頂点を動く点について、動いた点の位置とその確率の問題であり、正答率は 31.3% であった。同様に確からしいことに着目し、処理する力の定着が望まれる。

5 は、関数の領域における知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。**1** の(1)は、2次関数と反比例のグラフの増加について適切なものを選ぶ問題であり、正答率は 37.6% であった。(2)は、2つの関数について変化の割合が等しいときの2次関数の係数を求める問題であり、正答率は 17.3% であった。(3)は、座標平面の関数上の点を通る円とy軸との交点のy座標を求める問題であり、正答率は 1.9% であった。**2** は、水そうに溜めた水の排水の時間と水面の高さの関数のグラフを活用し考察する問題である。正答率は、(1)が 63.7%、(2)が 38.7(48.5)%、(3)が 0.6% であった。グラフを活用することのよさを認識できるようにし、日常生活や社会の事象の考察に数学を生かそうとする態度を育むことが大切である。

6 は、ダンスのフォーメーションチェンジを通して、事象を数理的に捉え問題を解決するための思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。正答率は、**1** が 32.3%、**2** が 16.2%、**3** が 0.0(10.4)% であった。普段の学習から場面を的確に捉え、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むとともに、その過程を振り返って、得られた結果の意味を考察することで、数学のよさを感じてもらいたい。

〈令7(2025)〉 数学学力検査結果集計表

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率		
1	1	95.0%	3	1	48.9% (65.4%)	5	(1)	37.6%		
	2	75.7%		2	(1)		27.5%	1	(2)	17.3%
	3	80.7%			(2)		17.6%		(3)	1.9%
	4	55.9%	3		12.7% (61.6%)	2	(1)	63.7%		
	5	61.7%	4	1	(1)		60.1%	(2)	38.7% (48.5%)	
	6	62.5%			(2)		70.8%	(3)	0.6%	
	7	71.7%			(3)	53.0% (59.2%)	1		32.3%	
	8	43.9%	2		31.3%	6	2	16.2%		
2	1	62.6%	3		0.0% (10.4%)		3			
	2	52.0% (63.2%)	2							
	3	41.2% (57.1%)	2							

※ () 内は部分正答も含めた割合

理科

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、エネルギー、粒子、生命、地球の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 自然の事物・現象についての概念や原理・法則の理解や、習得した知識を日常生活や社会と関連付けて考える力をみるようにした。
- 3 観察、実験などに関する基本的な技能をみるようにした。
- 4 見通しをもって観察、実験を計画して、科学的に探究する力をみるようにした。
- 5 観察、実験などから得られた結果を分析し、解釈する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、タマネギの根に関する実験を通して、植物の根の成長における細胞の様子について科学的に考察する力をみる問題である。3 は根の成長の過程を実験結果から考察する問題であり、正答率は20.3%であった。

2 は、凸レンズに関する実験を通して、凸レンズの性質について科学的に考察する力をみる問題である。3 は作図を通して凸レンズでできた像が、どの位置にある物体から出た光の集まりかを考察する問いであり、正答率は15.2%であった。4 はヒトの目がピントを合わせるしくみについて、実験結果を基に凸レンズとの関係を考察する問題であり、正答率は27.5%であった。

3 は、地震計の記録や震度分布に関するデータを用いて、地震の伝わり方について科学的に考察する力をみる問題である。2 は調査結果を用い、初期微動継続時間と震源距離の関係を求める問いであり、正答率は40.6%であった。4 は緊急地震速報のしくみについて考察する問題であり、正答率は22.1%であった。

4 は、酸・アルカリを用いた実験を通して、化学式など基本的な技能および科学的に考察する力をみる問題である。2 は調査結果を用い、化学変化の量的関係について数的処理の力をみる問題であり、正答率は48.5%であった。4 は水溶液中のイオンの総数を実験結果から考察する問いであり、正答率は42.1%であった。

5 は、コイルと磁石により発生する電流の関係やエネルギーの変換について科学的に考察する力をみる問題である。3 は台車がコイルを通過する時間と電磁誘導により発生する誘導電流との関係を考察する問いであり、正答率は39.1%であった。コイルを通過する台車の速さによって、誘導電流の大きさと電流が流れている時間の変化に着目できたかがポイントであった。

6 は、ヒトの呼吸と細胞のはたらきについて、血液の循環と関連付けながら科学的に考察する力をみる問題である。4 は呼吸と細胞のはたらきについて、体内で消費するエネルギーと関連付けながら考察する問題であり、正答率は25.1%であった。

7 は、エタノールの状態変化の実験を通して、粒子のモデルを用いて物質の状態を微視的に捉える力をみる問題である。3 は温度と物質の状態について考察する問いであり、正答率は23.1%であった。沸騰時のエタノールの状態について、正確な理解ができていたかがポイントであった。

8 は、地球から見た星座と太陽の位置に関する実験を通して、天体の見かけの動きについて科学的に考察する力をみる問題である。2 は太陽の見かけの動きについて、模型での天体が動く様子から考察する問題であり、正答率は29.5%であった。

理科の学習において、科学的な用語を理解した上で、自然の事物・現象について仮説をもとに実験計画を立てたり、得られた結果を分析・解釈したりすることも大切である。また、学習したことと日常生活や社会との関連を結び付けて考えることも大切になりたい。そして、理科の面白さを感じながら、学習に主体的に取り組み、進んで科学的に探究する態度を身につけてほしい。

<令7(2025)> 理 科 学 力 検 査 結 果 集 計 表

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率
1	1	89.2 %	4	1	65.1 % (65.6)	7	1	82.0 % (83.8)
	2	36.2 % (93.3)		2	48.5 % (49.5)		2	40.9 % (48.4)
	3	20.3 % (73.4)		3	38.9 % (40.9)		3	23.1 % (63.9)
	4	26.4 % (65.5)		4	42.1 % (56.2)		4	62.7 % (87.7)
2	1	74.8 %	5	1	61.7 % (65.0)	8	1	70.7 % (71.7)
	2	41.7 %		2	43.1 %		2	29.5 % (83.5)
	3	15.2 %		3	39.1 %		3	26.5 % (53.7)
	4	27.5 % (77.9)		4	43.9 % (94.4)		4	30.9 %
3	1	83.9 % (85.6)	6	1	60.4 % (61.7)			
	2	40.6 % (64.6)		2	24.9 % (26.0)			
	3	44.3 %		3	46.1 %			
	4	22.1 % (22.2)		4	25.1 % (47.2)			

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによるコミュニケーションを図る資質・能力を測ることができるようにした。
- 2 中学校学習指導要領に示されている知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を測る問題を出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞き、必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりする基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 読む力については、説明文や物語文などを読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って捉える力をみるようにした。
- 5 表現する力については、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えなどを英語で表現したり伝えたりする力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にした、音声によるコミュニケーションの場面を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体の平均正答率は、63.2%であった。1 は対話を聞いて質問に対して適切に応答する力をみる問題である。4問の平均正答率は73.0%であった。2 は対話を聞いて、必要な情報を捉える力をみる問題である。3問の平均正答率は70.3%であった。3 は3人による対話を聞いて、その要点を捉える力をみる問題である。3問の平均正答率は43.0%であった。聞き方の問題は、部分正答を含めると全体として正答率が高かったが、2の(3)が54.8%とやや低かった。「聞く力」の向上のためには、一部の情報を聞き取ることには終始せず、聞き取った情報を整理し、話し手が伝えたい内容の概要や要点を捉えられるようになることが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題及び目的や場面、状況などに応じて自分の考えを英語で伝える力をみる問題で、3問構成とした。1 は基礎的・基本的な言語材料を活用した、スピーチライターとして働く兄の紹介文を素材にしている。6問の平均正答率は46.6%であった。2 は語句を並べかえ、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。3問の平均正答率は56.8%であった。3 は外国の生徒からのメールを読み、日本

の学校行事を紹介するメールを完成させる英作文の問題で、完全正答率は4.9%、部分正答を含めると74.6%であった。

自分の気持ちや考えを相手に伝わるように英語で書く力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図るとともに、実際のコミュニケーションの目的や場面、状況を想定しながら、英語で表現しようとする取組を日頃から積み重ねることが重要である。

3 は、「プロギング」についての説明文を素材として用いた読解問題で、説明文の概要や要点を捉える力をみる問題である。4問の平均正答率は38.6%、部分正答を含めると58.1%であった。4 は、本文を読み、各段落の見出しを選ぶ問題である。平均正答率は27.7%、部分正答を含めると65.2%であった。「プロギング」の説明内容を理解した上で、本文全体における各段落の役割を考えながら答えを導き出すことが求められた。説明文を読む際には、話の論理展開を意識しながら、各段落や英文全体の概要や要点を的確に捉えることが大切である。

4 は、物語文を素材とした読解問題で、物語文の概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるものである。釣りに行った際の祖父との対話を通して、主人公の心が成長する様子を題材とした。5問の平均正答率は42.3%、部分正答を含めると46.7%であった。3 は、主人公とその祖父のやり取りを的確に把握しながら、主人公に対する祖父の発言について、適切な英語を選択する問題である。出来事や登場人物の心情を読み取り、状況を整理しながら読むことが大切である。

5 は、対話の流れを把握しながら要点や必要な情報を捉える力及び対話や与えられた資料やグラフに基づき英語で適切に表現する力をみる問題である。実際の言語の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。今年度は、アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが設計した日本とアメリカにおける建造物についての対話文を出題した。問題全体の平均正答率は28.7%、部分正答を含めると38.9%であった。3 は資料を参考に、文脈から判断して適切な英語で表現する力をみる問題である。2問の平均正答率は9.7%、部分正答を含めると23.1%であった。資料の内容や対話の流れを的確に把握し、適切な表現を活用して書くことが求められた。7 は本文中に述べられた出来事を起きた順に並べ替える問題で、読み取った情報を整理しながら答えを導き出すことが求められた。正答率は11.3%であった。

<令7(2025)> 英語学力検査結果集計表

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	68.6%	2	1	(1)	77.6%	4	1	16.7% (37.3%)	
		(2)	87.6%			(2)	48.0%		2	51.1%	
		(3)	58.4%			(3)	11.2%		3	57.7%	
		(4)	77.4%			(4)	38.6%		4	21.7% (23.2%)	
	(1)	78.1%	(5)			42.9%	5		64.2%		
	2	(2)	77.9%		2	(6)	61.1%		1	64.2% (81.8%)	
		(3)	54.8%			(1)	70.1%		2	29.9% (47.3%)	
		3	(1)		20.5% (22.0%)	2	(2)		36.3%	3	(2)
	(2)		90.4% (92.1%)		(3)		64.0%		(3)		12.7% (27.9%)
	(3)		18.0% (18.6%)		3		4.9% (74.6%)		5	4	52.2%
	1	84.3%	5		44.3%						
	2	①	52.9% (67.2%)		6	8.1% (27.8%)					
②		10.7% (28.5%)	7	11.3%							
3	17.5% (45.4%)										
4	27.7% (65.2%)										

※ () 内は部分正答も含めた割合